

こんなことをしました。
－派遣前・活動中・帰国後－

小川 建治

(17-1, ミクロネシア, 日本語教師, 大阪府立柴島^{くじま}高等学校)

小川と申します。よろしくお願ひいたします。本日いろいろな方が参加されていると思うのですが、一番切羽詰っていらっしゃるといふか、切実なのはやはり4月から参加される方だと思うので、一応その方に向けてのお話ということで進めさせて頂きたいと思っております。よろしくお願ひします。

まず、いきなりなんです、これ、実は僕がミクロネシアから持って帰ってきたものなんです、何だと思ひでしょうか？後ろの皆さん、これちょっと触ってみてください。この長さももしかしたらポイントかもしれませぬ。この布なんです、今から3つ選択肢を挙げたいと思ひます。どれか一つに手を挙げて下さい。1番、スカート。2番、テーブルクロス。3番、お葬式の飾り。どれか一つに挙げて下さい。正解は全部です。1番にも2番にも3番にも使ひます。ちなみに4番目としては、お別れのときとかに、さよならの印として渡すものでもあります。これは、僕は4番の使用目的としてもらひました。決して1番ではないです。このようなもの、実物（を端から回したい）と思うのですが、是非触ってわかるもの、実物を皆さん持って帰られるといいかなと思ひています。では、始めたいと思ひます。

まず、小川と申します。広島生まれの広島育ちです。こんな情報いらぬですね。2000年、柴島高校の商業科の教員、簿記とか情報処理を担当しております。2005年、5年間働いた後に青年海外協力隊に参加いたしました。ミクロネシア連邦の日本語教師でした。去年の4月に柴島高校、幸いにも同じ学校に復職させて頂きました。なぜ協力隊に行ったかといひますと、まず私は大学を卒業してすぐに教師になったものですから、非常に、このまま教師をやっている、自分が民間の社会人というものを経験したことがなかつたので、それでいいんだろうか、生徒に伝えるものがあるんだろうかとコンプレックスを持っておりますので、何か自分の世界を広げたいということがありました。それから、日本や外国の言語・文化への興味。あと困りたい。これは最初のコンプレックスとも関係しているのですが、ものすごく困った状況に陥ったときに自分がどうするのだろうかという興味があつたんですね。ちょっとMっぽいということもありますが。それで、どうやったら困れるんだろうかと、どうやら日本にいるままでは、便利だし人も知り合ひもいっぱいいるし困れなさそうだと。自分をとことん困らせようと思つたらどこに行つたらいいか。やっぱり途上国かなと思つたわけです。ということで、きっかけは自分のためだつたんですね。でも、それでいいと思ひます。ボランティアといふと、誰かのために自分を捨てて何か、というイメージ

があるのですが、本当に自分のためがいいと思うんです。皆さんは教師ですので、悲しいかな、教師の性というものがあまして、子供を目の前にするとつい、この子のために何かしたい、とってしまうんですね。ですので、私も最初は自分のためがいいのだろうかと思っていた部分があったんですけど、ミクロネシアに行ってみて子供の顔を見ると、やっぱりこの子達に何かを伝えたい、何かしたい、と思ったんです。ですから、必ずそういうふうに意識が変わるときが来ますので、それでいいと思います。

ミクロネシア連邦ヤップ州のヤップ島という小さな島に一つだけ高校があったんですが、そこで日本語や日本文化を教えて来ました。ここが日本です。そしてミクロネシアのヤップ島、ほぼ赤道に近いところですが、ありました。本当に小さな島で、人口が 5000 人くらいでした。周囲が 9 × 9 キロメートルなので、自転車で一周できる島です。有名なのは石のお金で、石のお金は現在でも使われています。それからふんどしですね。現地の方は普段はTシャツにGパンなんですが、正式な伝統衣装はふんどしをはいて、上は何も付けません。男女とも、女性もトップレスという状態です。学校の様子です。これがヤップ高校の敷地なんですが、平屋建ての建物がひたすら続いているという状態でした。これはあとから出てきますけども、スクールバスです。これはすべてアメリカの援助で貰った、貰い物のバスです。校長。こんなの校長でいいのかと思われるでしょうが、一番右端に移っているのが J I C A の職員なんですが、彼が駄目ですね。南の島でこういう格好をしてはいけません。左の方が、正しい働く格好です。右が間違っております。学校の様子、これは卒業式なんですけども、左側は僕のステイ先の弟です。アメリカ式の卒業式ですので、35 度とかいうクソ暑い中でこのような格好をしております。右側はこれは小学校の卒業式なんですけども、これは(ヌーヌー)という首飾りをかけられればかけられるほど祝福されている印なんです。ですので最後にはこんなふうにはえらいことになるわけなんですけども、こういうふうに作ったものをかけてもらうほど、幸せというか、おめでとうと言ってもらっているということになります。

これ、気になる成績表というものなんですけど、成績の付け方はアメリカ式でした。A B C D があって、E がなくて F が落第です。それぞれにプラスとマイナス、A プラスとか B プラスとかを付けることができます。上から 2 番目は僕のクラスなんですけども、この子は割と賢かったので A マイナスを僕は付けていますね。欠席、遅刻とあるんですけども、ものすごく大目に見ています。そのあと態度とか努力、それから参加度、課題とあるのですが、それぞれに対してコメントを付けます。僕はそれぞれ、良いとか素晴らしいとかあるのでそういうのを選んでいますが、このコメントが、日本で教師をされている方からすると信じられないようなコメントの候補があるんですね。「いつもバカ」とか、そういうコメントがあったりして、こんなの選んでいいのかなというものがあるんですけども、そんなものも入っていました。アメリカ式です。これが、アメリカの大学とかに入学するときに必要なになるので、割と皆成績は必死に良い成績を

取ろうとするのに、努力は一切しません。なので成績だけを気にして、何もそこに結びつく行動はしないというのが彼らの特性でした。

これが日本語クラスの様子です。これもアメリカの援助で建てられた建物なのでとてもきれいなんですが、僕が前で授業をしております、今ひらがなを教えているところです。これはかるたをしているところです。先ほど卒業式のとにかけていたヌーヌーという頭飾りを皆つけています。これは箸で豆を移すゲーム。本当は小豆とかあったらいいのですが島にないので、島の豆を使って、箸は日本から送ってもらっています。これは何だと思いませんか？これはフルーツバスケットなんですね。現地にももちろんフルーツバスケットはないのでこれが日本の遊びかどうかは疑問なんですけど、これも授業中にやったらめっちゃめっちゃ白熱しまして、椅子が壊れたりとか、足打撲とか、ものすごい状態になります。高校生とは思えない。どんなに写真をちゃんと撮ろうと思ってもぶれるという、いかに彼らが速く動いているかがわかると思います。これは習字ですね。書道を教えているところです。本当に彼らの集中力はすごいのですが、飽きるのも、5分で飽きます。

これは学校のチャイムなんですが、まず学校システムの違いですね。ほとんどすべてアメリカのお下がりでした。教科書も、授業のスタイルとかもすべてアメリカのお下がりでした。ですので、歴史の時間と云ったら、アメリカの教科書を使ってアメリカの歴史を教えているんですね。何かおかしい、という気がします。行事や祝日はほとんどありません。ほぼ毎日授業です。会議がめったにない。これはめっちゃ嬉しかったんですけど、僕は今、日本の所属校で週に3回会議があるんですね。定例の。それぞれが2時間ずつくらいあるんですけど、ミクロネシアでは、会議は3ヶ月に1回あるかないかでした。保健室がない。これもすごいですよ。体調不良を訴えても放っておかれます。精神的につらいとか言おうものなら誰も助けてくれません。これもすごいなと思いました。時間割が毎日同じ。これは、順番は変わるんですけど、ひたすら同じ時間割を毎日繰り返すんです。でないと皆忘れる。月曜日が何とか火曜日が何とか覚えられないと思います。チャイムが適当。僕最初、チャイムを守りなさいよと言っていたんですけどチャイム自体が、この鐘を教頭が鳴らすんですけど、教頭が鳴らし忘れてたりとか、寝ていて5分遅れるとか、毎日あるんですね。だからチャイムが適当に鳴るので、「チャイムを守りなさい」とは言えずに、非常に最初はストレスがたまりました。自分で鳴らしに行ったらかと思いました。突然の授業キャンセル。今日はこの後大掃除、とか急になるんですね。あとは雨が強くなったので帰ります、とか。もうまさしく南の島のハメハメハ大王状態でした。外国人教師の多さ。これはもうフィリピン人とかアメリカ人とかが非常に多かった。日本人の僕も含めて、現地人の教師があまりいなかったです。現地では、教師という仕事がありません。それから、もう何もかもがない。予算不足、備品不足、教員不足です。ホワイトボードのペン1本貰うのに3ヶ月くらい言い続けなくて貰えなかったりとかしました。

困ったこと、大変だったこと。言葉がわからない。これはもちろんですがしょうがなかったです。公用語は英語なんですけど、日常的には島の言葉を皆使いますので、その島の言葉が最初まったくわからず、という状態でした。とにかく時間にルーズ。パーティーが5時からやでと言ったら、パーティーが本当に始まるのは夜の8時とか、そんな感じが日常茶飯事でした。何もかも忘れる。宿題を1回出したのですが、全員が、きれいに心の底から忘れちゃった。普通日本だったら、知っているけどわざとやらなかったとかあるじゃないですか。そんなのなし。もう本気で心から皆忘れてるんです。盗む・壊す。これは本当に悩まされました。日本の雑誌とかを持ってきていたんですけど、ものすごく盗まれるんです。JICAのシールさえ盗むんですよ。あんな誰もしらんと思うんですけど、ものすごく盗まれました。ひたすら暑い。これは毎日、雨季と乾季なんですけど、ものすごく暑いんです。食材がない。野菜が全然食べられなかったです。伝染病が多い。これはマラリアではないんですけども、デング熱という病気があります。蚊に刺されることで感染するんですけども、非常に怖い病気がありましたので、蚊に刺されないようにキンカンとムヒは常に持っているという状態でした。でもそれでこそ協力隊。日本と一緒に意味がないと常に自分に言い聞かせていました。

嬉しかったこと。慣れると皆ものすごく親切。例えばスーパーに行ったとき、この肉高いから買わん方がいいよ、とか言ってくれるんです。大きなお世話なんですけど、そういうこともあります。ものすごく皆親切で、皆が僕のことを知ってくれていたんで、声をよくかけてくれました。日本好き。やはり、日本統治の時代がありました。1914年から1945年まで30年間日本でしたので、おばあちゃんおじいちゃんが日本語を話せるという人がほとんどでした。本当に、こういう海を見てもらったらわかるんですよ、美しい自然がありました。素朴で素直な生徒たちでした。帰るとき、島を離れるときには、「日本にいつか行きたいんだけど、大阪って所にいるんだよね。空港に行って、賢治はどこだ、って探すからね」って言ってくれたんです。人口5000人ですから、空港に行って賢治はどこだって言ったら本当に僕に辿り着くんですよ。だから日本の1億2000万という人口が想像もつかないんです。「空港に行って賢治を探すからね」ってマジ顔で言っているんです、高校生が。

逆カルチャーショック。日本に帰ってきてから、会話が全部わかる。これはすごいことなんですよ。電車とかに乗っていると、隣のカップルの余計な会話とかが全部聞こえるので鬱陶しいということがありました。言いたいことが全部言える。今もそうなんですけど、細かいニュアンスも含めて全部言えてしまうという、これが素晴らしいことだなと思います。知り合いがいらない。梅田の、大阪の街をどんなに歩いても知り合いに会わない。これはすごいんですよ。僕の住んでいたヤップという島では、スーパーに行くだけで皆に見られ、僕が昨日何を買ったかを皆が知っています。だから知り合いがいらないのは本当にすごかったです。ハイテクにいちいち感動。エレベーターや！とか思いました。エスカレーターやで！とか、あとはそういうハイテクではなく

でも、例えば常にきれいな水が出るとか、それから電気は絶対停電しないとか、本当にすごいなと思いました。あと丁寧なのに無表情な人々。例えば接客でも、店に行ってもものすごく丁寧な言葉を使っているんだけど、いまいち無表情な感じというのがありました。あとこれは僕自身のことなんですが、やたら人に触る。帰ってきて、「元氣やった？」とか言いながら男を抱きしめたりとかしてしまいうんですね。ということで、やたら人に触るようになってしまって、最初は気持ち悪がられました。あと遅刻魔化。素で遅れるんです。向こうでは皆が遅刻することに腹を立てていたのに、帰ってきたら僕、仕事の大事な約束に普通に遅れるとかしていました。なくす・忘れる・間違える。こんなの日常茶飯事で、同僚から貰った大事なデータをなくしたりとかしていました。「なんてよく考えられているんだろう！」。これは仕事なんですけど、例えば4月の最初の年度初めの会議に、普通に3月まで、年度末まで予定が決まっているというのがすごいなと思いました。ヤップだったら、来週のことでも決まっていらないですね。まあその日のことも決まっていらないんですけど。そういうことがありました。

所属校に向けての発信ということですが、手紙・カード・ビデオ交換。それから月に一度通信を出していました。教え子の手紙、本人が書いたものに私からの手紙を同封。これは、僕が担任を日本でしていたときに、皆が卒業式のときの自分に向けて手紙を書いてごらん、と言って、実はもうそのとき僕は協力隊に行くことが決まっていたんですがそれを隠して、皆に書かせて、それをヤップから僕の手紙を同封して、1年後くらいに、皆が卒業したときに送ったということをやったんです。それからクロスロード。JOCVの雑誌ですね、それからJICAのホームページへの投稿などを行いました。この写真は僕の所属校に向けて子供たちが手紙を書いているところです。3月までにしておいてほしいことなんですが、今の仕事を、まずきっちりとしてほしいと思います。あいつはよ行ってほしいわ、くらいなのでなく、できれば、あいつがいなくなるのは痛いけど、でもあいつやったら頑張っていけそうやしな、と言われるような仕事ぶりをしてほしいなと思います。ブログかHP、僕も作ったんですけど、是非とも作っておいてください。訓練所に入ってからでは、時間がありそうでないのです。あと訓練が終わってから出国まで1週間~10日くらいしかないのです。是非とも作っておいてほしいなと思います。それから協力者、転勤しそうにない人を見つけておく。これも大事で、僕は英語の先生を見つけていろんな、例えば通信とかをコピーして印刷するのをお願いしてから行きました。本当に助かりました。学校生活の写真や映像を撮る。これは本当になんでもない、例えば昼休みの写真とか、そんなのもいいと思うんです。もちろん行事とかの写真でもいいと思います。あとは学校生活以外でも例えば家族の写真とか。向こうは本当に家族を大切にする国が多いと思うので、家族を、お父さんとかお母さんをすごく見たがるんですよ。だから家族写真、普段撮っていないと思うんですけど、是非撮られたらいいかなと思います。

活動中にしてほしいこと。一緒ですね、写真やビデオを撮る、自分が写っているもの。なかなか自分も撮ることがないんですよ。でも帰ってきて日本の生徒たちが見た

いのはこの先生がどこで何をどんな感じでやっていたか、というのを見たいので、自分が映っているものを是非撮ってほしいなと思います。実物、さっき見せたスカートとかですね、通信。月1回がベストかなと思います。週1回出している人もいたんですが、ちょっと鬱陶しがられていました。なので月1回くらいかなと思います。それからフォトレター交換と物々交換。時差がもし少ない国であれば、Web交流もできたら格好良いだろうなと思ったりもします。これは僕はできませんでした。「世界の笑顔のために」の参加というのはJICAのプログラムで、日本人たちからいろんな物資を送ってもらう、その費用をJICAが持ってくれるというのがあるんですけども、それに参加するといいかかなと思います。ただこれは、申し込みをしてから実際に届くまでに1年くらいかかるので、タイミングが大事なんです。行ってすぐ申請をして、しかも申請の時期が決まっているんですけど、帰る間に届くという感じかなという気がします。それから「どう伝えるか」。帰ってからどうやってこの状況を日本の子に伝えようか、ということは常に考えて頂ければなと思います。で、あせらず、楽しむ。帰国後にしていること。まず学校で、1日1回はヤップの話をして絶対するぞと僕は決めています。ヤップ先生と呼ばれています。ちょっと気持ち悪がられております。後任との交流。後任がいればということですね。「伝え方」のセミナー。JOCAというJICAによく似た団体があるのですが、その伝え方のセミナーに参加したり、別の高校に行ったりとか。あとは地域の、僕は日本語教師だったので、日本語習得のボランティアをしたりしています。

終わりに。僕が思うに、一般隊員はこうだと思うんですね。派遣中は80%のやることがある。派遣が終わってから前後が20%。でも現職参加はこうだと僕は思います。やはり行く前とか行ってから、帰ってきてからいっぱいやることがあるのではないかと。これは僕自身にも言い聞かせているんですけど、そのように思います。ということで、まずは健康第一で楽しく行って頂きたいと思います。下に活動中のブログとか、今も残っているので、もしよかったら覗いてご参考になさって頂ければと思います。以上です。ご清聴ありがとうございました。